



報恩講の意義

本願寺門主 大谷 光眞

今年も皆さまと一緒に「正忌報恩講」をおつとめいたしました。本日、大遠夜を迎えることができました。

早いもので、私が繼職いたしましてから、今年は二十一回目の御正忌になります。年齢を重ねますと、だれでも「昔はよかつた」という言葉がついでますけれども、今と昔のことを公平に比較するのはそう簡単なことはありません。

ところが、わたしたちの宗門のことに限つて申しますと、正直いって、「昔の方がよかつた」と言える事柄がたくさんあります。昔のことをあまり聞いていらっしゃらない方は、どうかよく知つていらっしゃる方にお尋ねになつたり、昔のことを具体的に描いた文学作品や歴史の書物などをご覧になつてください。

しかし、「昔はよかつたのに……」と今を嘆いているだけではどうにもなりません。今、実行しなければならないことをはつきりさせ、それに取り組むことこそが大事です。「報恩講の意義の再確認」は、その一つではないでしょうか。

私たちが報恩講をおつとめ致しますのは、宗祖親鸞聖人が、「私の、そして私たちの、いのちの根本問題を解決する道」、すなわち「無量寿經」にあります「生死勤苦しきごく本」、すなわち、物や他人によつて支えられたり慰められたりして解決される課題の、さ

らにその奥にある根本問題が、曖昧になつているように思えます。

例えば、健康な人も、そうでない人も、豊かな人も、貧しい人も、老いも若きも、等しくこの世を去らねばならないという事があります。健康法や健康食品では解決することのできない問題です。逆に、そのところを解決すると、私が生きている意義が納得され、また、人間同士、さら動物、植物にも通じるいのちへの共感が広がつて行きます。

阿弥陀如来の救いのはたらきが「南無阿弥陀仏」の名号となつてこの私を呼び支えてくださると聞くことは、逃げることのできない「死」を抱えている私、他のいのちを犠牲にしたり踏みつけにして生きているわ私を心配し見捨ててはおけないという阿弥陀如来さまのお慈悲に遇うことです。

阿弥陀如来の救いに遇うこと、私が救われ難い煩惱に満ちた人間であることを見られることを、切り離すことはできません。

他力の信心とは、自分がこちら側にいて、阿弥陀様を向こう側に置き、お救いを期待することではありません。阿弥陀如来は南無阿弥陀仏の名号となつて、私の心に口にはたらいてくださるのですから。

罪業功德の体となる

こおりとみづのごとくにて
こほりおほきにみづおほし

さはりおほきに徳おほし（高僧和讃）

と親鸞聖人は和讃にうたわれました。

仏法を聴聞することを通して、この世の喜びや悲しみ、苦しみや悩みは、實はこの世を超えた広い世界に氣つく大切なご縁、有り難いご縁であったと知らされます。

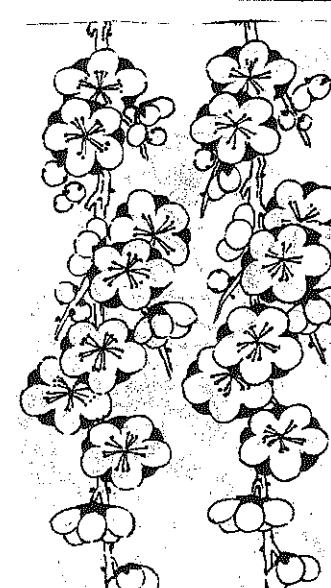
春秋2度のお彼岸は、聖德太子のころから始まって、平安時代にはひろく庶民のなかにまで広まつていきました。もともと太陽のめぐみを崇拜する気持ちからえられてくると、その仏教のおしえの中であるパーラミタ（こちらの岸からあちらの岸に渡る。迷いのこの世界から、悟りの彼の岸にわたりましょ）という呼

現代人には、毎日の暮らしのなか、悩みや不安・不満は沢山あります。一方で、「生死勤苦しきごく本」、すなわち、物や他人によつて支えられるのです。（中略）

として、先人が伝えてくださった仏法からにかのヒントを得るきっかけとしても、ぜひ受け継いでいただきたいのです。

「他力本願のことわりをねんごろに聞き開き、さまざまなご縁に育てられて、この私が、専修一向の念仏の行者」（蓮如上人《御俗姓》）になることこそ、報恩講の要（かなめ）であると聞かせて頂いています。

四月卯月のこよみ



一日	本山参詣
五日	出石石組組合会
六日	木村和則氏宅法事
八日	花祭り（准仏会）
九日	八代光顯寺永代経
一〇日	湯口家墓参入式
一一日	観妙校会（別掲）
一二日	出石組『連研』（勝林寺）
一三日	澤田貞彦氏宅忌明法事
一九日	宮嶋哲也氏宅法事
二〇日	澤田春吉氏宅法事
二六日	みのりを聞く会

お彼岸

たんき ほんき たんころりん
たにしが コロコロ ないでいる
たんき ほんき たんころりん
からすが たにしを つづいてる

たんき ほんき たんころりん
ちんちん電車も やつてくる

たんき ほんき たんころりん
おひがんまいりも つづいてる

昭和初期ののどかな田園風景が浮かんで参ります。

活の中に年中行事として根付いていたと考えられます。従つて、行事としての「お彼岸」は、インドにも中国にもなく日本独特ですが、この「お彼岸」の行事のところは、お釈迦様の教え、すなわち、パラミタ、煩惱の世界（こちらの岸）を越えて、清淨な彼の岸に渡つていいこうよ。というお勧めを、日々のくらしの中で思ふといふましょうという仏教の教えなのです。

煩惱のこちらの岸。此岸。自分中心。自己中心にこだわり、みずから競争・差別・闘争の苦惱のなかに落ち込んでいる今の暮らしです。その暮らしをはなれ、真西に沈む夕日の茜空のなかに思い浮かべ想い巡らしましょ。このお釈迦様の教えを、すべてのこだわり・あらゆる執着から離された清浄なニルバーナー悟りの岸に渡りつきましょ。このお釈迦様の教えを、真西に沈む夕日の茜空のなかに思い浮かべ想い巡らしましょ。このお釈迦様は、悲惨な境遇に苦しむある女性にそのように勧めて下さるのです。

おみのり聴聞のなかで、ひごろの暮らしを深く顧み厳しく懺悔し、そのわたしを「南無阿弥陀仏」と呼んでくださる無碍光如来のお慈悲に目覚め感謝いたしました。

しかし、これは、その名前が何かよりも、親鸞様の女性観を示すものとして大正十年に恵信尼さまの直筆のお手紙が発見される以前には、親鸞さまの妻はその名前さえ分かつてはいませんでした。しかし、これは、「六角堂の夢のお告げ」の中にある言葉、「玉のようないましよう」ということばからの連想でした。

親鸞さまは生涯、わが妻に対して、「觀音さまの化身として私を浄土へ導いてくれる人」と見ておられたのです。逆に恵信尼さまは、わが夫親鸞さまを觀世音菩薩の化身として終生恭しくお仕えになりましたと自身お手紙に書いておられます。

会長	稻葉 関川
副会長	立脇 やよい
副会長	鈴子 節子
副会長	(出合)
副会長	(丸中)
副会長	(栗尾)
副会長	(上小田)
事務局	永井 春代
事務局	貴恵 (矢根)
事務局	昌子 (魚屋)
事務局	昌子 (上小田)

ご門徒のみなさんへお願ひ

平成23年に勤修になります「親鸞上人750回大遠忌法要」にそなえての勝林寺本堂整備修復工事などの法要にかかる諸経費、その他後継住職育成援助資金など、その収支会計について、既に代議員会において再三再四検討審議をいただきました結果、

本年秋から六年間に分割して、

経常費と同額の寄付を

「親鸞上人750回大遠忌割り当て懇志」としてお願い致しております。

なるべくご負担の軽いようにを重点において考えております。

なにかとご苦労をお掛けすることですが、何卒、ご理解のうえよろしくお願ひ申し上げます。

既に、勝林寺本堂整備事業は始まっており、現在 本堂正面の欄間七枚は取り外され、京都の工房で修復作業中です。

また、四月半ばかりは本堂正面の柱および長押の金箔押し替え工事に入る予定で、漆塗り工事メバリのために本堂へは三ヶ月ばかりは立ち入れなくなります。(永代経には完成予定ですので、どうぞお参りください)

さらにこの度、後継住職深音さまが、得度式(僧侶資格の認証式)を終えられました。ご門徒みなさま共々に心よりお祝い申し上げます。

勝林寺責任役員 宮嶋 千秋

対してこのように応えてくださったと思われます。法然さまは、人とうまれた目的は、お念仏に遇うためだ。だからお念仏に出遇い易いように暮らしこそを選びなさいと諭されました。『和語燈籠』(法然さまの言行録)には

「人間はいつもでも念仏申せるような状態をつくつて暮らせ。聖(僧)として申せなければ妻帯して申せ。妻帯して申せなれば僧で申せ。一つの場所にとどまつて申せ。自分で衣食を整えて申せなければ、さすらいの旅をして申せ。旅で申せなければ家にいながら申せ。自分で衣食を整えて申せなければ、他人に衣食を整えてもらつて申せ。一人で申せなければ、友達仲間と申せ。人と一緒に申せなければ一人で家に籠もつて申せ。人間が念仏申せるような状態にするためにこそ衣食住があるのだ」

仏婦新役員 決まる

さる二月十一日の仏婦評議員会に於いて次の方々が新たに役員として選任されました。多忙ななかでのお勤めです。会員みなさまのご理解ご協力を願います。

【一部】 グランドゴルフ	
児童・学生誰でも参加歓迎	午後2時開始
参加費 ￥無料	賞品あり
午後5時受付	五時半開会
◇おつとめ 法話	
懇親会	

○地区代議員さまを通じ参加申し込みをして下さい。

観桜会

念佛奉仕団へのすすめ

昭和二十三年の「蓮如上人遠忌法要」以来この「念佛奉仕団」に(人数の多少はあっても)勝林寺門徒から毎年参加してまいりました。全国各地から集まる念佛者たちが語り合いかがら軽い奉仕作業をしたりご法話を聴聞致します。

五月二十二日(木)から二十三日(金)の一泊二日

お寺に直接お問い合わせ下さい。「要綱」をお届けします。

「要綱」を